

平成 26 年度決算認定に係る 施策及び事務事業に対する提言（案）

※この提言案は 8 月 4 日、5 日に開催した各常任委員会での協議をまとめたものであり、9 月に開催する各常任委員会での協議を経て、提言を行います。
したがって、この案が最終的な提言ではありません。

飯田市議会

平成26年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【総務委員会】

No.	施策名	区分 No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
	事務事業名			
	情報共有の促進	92		
1	広報番組制作放送事業	43-6	や り 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> どの程度の市民が視聴しているのか、成果指標はアンケートによる10%であるが、その検証がされていない。 検証の結果により更なる視聴率の向上を目指すべきである。 緊急放送への対応を目指すとするれば、視聴率の向上は不可欠である。
2	良質な行政サービスの提供	93		<ul style="list-style-type: none"> 施策全体の総合的な評価として、「ある程度進んだ」としているが、目標の達成状況については、進んでいるとは評価しづらい。 上位政策「市民と共に進める行政経営」を実現するために、何が問題であって、何をしようとしているのかがはっきりしない。 「サービス業のプロ」という発想には違和感がある。 市民の満足度をどのように把握するかが課題である。 研修参加の職員アンケートの満足度指標は自己満足であって、成果として現れるべき「職員の資質の向上」は市民が判断することである。
3	職員研修事業	3-2	や り 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> 職員研修会に参加する職員の割合は年々低下をしており、研修のテーマ、やり方に改善が必要である。 成果指標は、研修参加の職員アンケートによる満足度で判断するべきでない。 頻発する交通事故や違反の対策のための研修が必要である。 他機関への派遣研修や民間との交流研修についても検討されたい。
	効率的、効果的な行財政運営	94		
4	入札、契約業務	4-2	や り 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> 課題としてきた「総合評価落札方式」については検証のまとめを行い、改革を進められたい。 必要であれば県で実施している「電子入札制度」を検討すべきである。 より多くの業者が参加し、公平な入札、落札ができるよう早急に検討されたい。
5	行政評価システム運営事業	7-7	や り 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> 行政評価も8年を経過する中、マンネリ化が危惧され、施策の評価は、事務事業との関連が反映されているとは言えない。 成果指標には妥当性を欠くものもあり、指標のあり方を徹底的に見直さなければPDCAサイクルを回すことはできない。 改革提案に「引き続き検討する」という表記が多くあるが、これは改革提案とは言えない。 次年度に生かされるシステムと言えるか疑問である。

平成26年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【総務委員会】

No.	施策名	区分 No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
	事務事業名			
	市民参画による協働の促進	91		
6	総合的な空き家対策事業	14-19	拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・条例が制定されたが、所有者としての責任が根本にあることを確認する必要がある。 ・「管理不全対策と跡地利用の支援」といったこの条例の効果を見ていく必要がある。 ・「空き家化の予防と活用・流通の促進」といった観点では、予防措置として重要であり、羽場地区での活動などを参考に全市に展開されたい。
	中山間地域振興の推進	85		
7	地域振興住宅整備事業	14-14	現維持	<ul style="list-style-type: none"> ・やり方改善の意見も多くあったが必要な事業でもあり、現状維持とした。 ・建設地の確保のための支援を行うと共に、空き家対策との連携も検討されたい。
	交流による高付加価値化・国際化の推進	81		
8	大学とのネットワーク構築事業	7-4	やり改善	<ul style="list-style-type: none"> ・大学間のネットワーク構築は進んでいると判断するが、フィールドスタディだけでなく、大学の知見が地域にどのように生かされているかを成果として表す必要がある。 ・大学の知見、研究成果が地域に生かされ、人材育成や定住につながるような仕組みを構築されたい。
9	リニア推進事業	8-1	やり改善	<ul style="list-style-type: none"> ・リニア推進ロードマップの3本柱のうち柱2の「社会基盤整備関連」は、本事業と切り分けて進めることは良いが、柱3の「戦略的地域づくり」も見方が異なり、本事業と区別すべきである。 ・ブランディング事業とプロモーション事業とも連携しながら推進されたい。
	交通機関と道路の充実	44		
10	市民バス等運行事業	8-2	現維持	<ul style="list-style-type: none"> ・人口減少が進む中、利用者が増加していることについては、評価できる。 ・路線ごとの検証をし、市民ニーズを取り入れることで、より一層効率的な運用に努められたい。
	地域情報・課題の相互理解の推進	71		

平成26年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【総務委員会】

No.	施策名		区分 No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
	事務事業名				
11		自治活動組織加入促進支援事業	14-3	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・組合加入については、防災、減災の視点からの働きかけも必要とされ、長年の課題となっている。 ・現状を見る中で、加入する必要性を感じない、または負担に感じる世代も散見される。 ・世代別の加入状況のアンケート調査などから、意識改革を更に進めるのか、あるいは組合に頼らない手立てについて検討されたい。
	自然とのふれあいと環境学習の推進		54		
12		地域環境活動支援事業	19-21	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・事業の組み立て段階から検討不足と判断する。 ・25年度からの問題点の改善もなく、市民団体や事業所の活動が見えない。 ・このままでは事業のあり方を問われる。
	廃棄物の減量と適正処理		56		
13		家庭生ごみ分別収集推進事業	19-26	現 維 持 状 持	<ul style="list-style-type: none"> ・現状において多くの問題点があり、縮小の意見が多くあったが、事業としては来年度縮小ということにもならないので、現状維持とする。 ・事業が開始された当初と社会情勢も変化しており、市内の一部地域に約1,500万円の事業費を投じることには問題がある。 ・事業の見直しを行い、新しい方向性を検討されたい。
14		不法投棄対策事業	19-29	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・市民への周知、意識の高揚を図るよう行政はもっと主体性をもって対処されたい。 ・不法投棄の件数・量の減少という、この事業の成果を明確にするとともに、不法投棄されやすいものの特別回収を検討されたい。
	社会の低炭素化の推進		57		
15		もりのエネルギー利用推進事業	20-6	現 維 持 状 持	<ul style="list-style-type: none"> ・対象が市民となっているが、木質バイオマス機器の導入には价格的、季節的な課題がある。 ・活用は公共施設や事業者に重点を置かざるを得ない現状がある。 ・域内燃料を使ってCO₂の削減をするという目標を明確にされたい。
16		省エネルギー推進事業	20-19	現 維 持 状 持	<ul style="list-style-type: none"> ・市全体の温室効果ガス削減量では市民意識を高めるような具体的な指標とは言えず、市民の関心も高まっていない。 ・成果指標もこの事業による成果を示しているとは言えず、具体的な省エネ住宅改修件数などとするべきである。
17		新エネルギー推進リーディング事業	20-11	拡 大	<ul style="list-style-type: none"> ・上村の小沢川における小水力発電の事業の研究について、ここまでの地道な取り組みを集約し、早急に「再生可能エネルギーの導入による持続可能な地域づくり条例」に基づく事業認定を行い、地域と共に実効性を上げるべきである。
	災害対策の推進		41		

平成26年度 決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【総務委員会】

No.	施策名	区分 No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
	事務事業名			
18	災害情報等提供システム整備事業	44-4	やり 方 改 善	<ul style="list-style-type: none"> 市民の安全安心という観点から、多くのシステムで対応することは重要である。 緊急告知FMラジオシステムの導入を検討されたい。
19	災害対策事業	44-5	やり 方 改 善	<ul style="list-style-type: none"> 防災無線の運用については、市民から聞き取りにくいとの苦情が多数寄せられており、また、老朽化の問題も指摘されている中、実質的な進展が見られない。 緊急性のあるテーマで拡大という意見もあったが、拡大するための基本計画が定かでない。 緊急時に一人でも多くの市民に情報提供できるように、更新計画を早期に策定されたい。
20	消防団運営事業	44-10	やり 方 改 善	<ul style="list-style-type: none"> 長年の懸案事項となっているが、該当する人口の減少ばかりでなく、意識も変わってきている。 啓発活動もこの点を踏まえ、女性消防団員を視野に入れた、制服の検討、トイレの改修などの検討も必要である。 正規団員の確保は重要であるが、企業の消防組織やOBとの連携についても検討を深める必要がある。
評価 対象 数	施 策	1		・19事務事業の方向性 「拡大」……………2…………No.6・17 「やり方改善」…12…………No.1・2・4・5・8・9・11・12・14・18・19・20 「現状維持」……………5…………No.7・10・13・15・16 「縮小」……………0 「廃止」……………0
	事務事業	19		
	計	20		

羽場地区“空家”の利活用を創造する「空き家アイデア活用プラン羽場」とその後

羽場まちづくり委員会（総務部）

羽場まちづくり委員会では、まちづくり基本構想に「安全安心で住み良い羽場地区」を掲げ、地域ぐるみで空家対策に取り組みます。平成 25 年に、自治会が空家持主と管理に関する覚書を締結した事例を皮切りに、26 年度は飯田市空家等対策事業補助金を活用して、地区内の空家の実態調査と集約をして、意見交換しました。

経過

- 平成 25 年 3 月、自治会が、空家持主の親族と、安全対策防火防犯および環境衛生を良好な状態に保つための行為（草取り、植木管理、異常時の通報等）について、覚書を取り交わすことができました。

補助助金の活用状況

- 空家調査 平成 26 年 4～7 月、自治会長を中心に調査し、65 件の情報が報告されました。
- 意見交換 10 月、まちづくり委員会代表理事でワークショップを実施、ベスト 10 を選定しました。

選んだ家屋と活用プラン 10

活用可能性が高いとみた順に掲載。*印は住宅診断の予定物件。



①羽場町 2 丁目(2 階建て)
一家団欒が楽しそうな住宅



②羽場町 1 丁目(平屋建て)
外観も良く素敵な住宅



③羽場町 1 丁目(平屋建て)
公園に近く日当たり良好



④羽場町 1 丁目(平屋建て)
新しくて即入居が可能な感じ



*⑤曙町(平屋建て)
書が似合う古民家風な佇まい



*⑥曙町(2 階建て)
一般的で広めの住宅



*⑦曙町(2 階建て)
畑仕事や庭木手入れに
楽しい住宅



⑧羽場町 1 丁目(平屋建て)
隣が公園、子供が集う所



⑨大休(2 階建て)
閑静で心地よい住宅



⑩大休(平屋建て)
憩いの家に来たら…

空家調査後の動向と、今後の対応

- まちづくり委員会が費用負担して「住宅診断」(家屋の状態を専門家が診断)すること提示しましたが、*⑥所有者との協議では「他者に貸すつもりは今のない」との理由で住宅診断に至りませんでした。
- 住宅診断が実施できた場合には、診断結果を地区内優先に情報提供して、UIターンなど居住希望者との連携を図る予定。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【社会文教委員会】

施策・事務事業の区分	No.	の事務 方向 事業 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名			
義務教育の充実	22		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・飯田市らしい地域特性を活かした、コミュニティースクールの構築を検討されたい。また、家庭環境による教育格差が生じないよう、学習ボランティア等、学習コーディネーター配置、サポート。また、公教育現場の負担軽減を併せ、配慮いただきたい。 ・就学前の子育てにおける家庭教育を含む、幼保小連携の政策を検討されたい。 ・小学校の不登校児童増加の原因等の分析を行い、対策に取り組まれたい。
学力向上支援事業		現状維持	<ul style="list-style-type: none"> ・全国学力学習状況把握の実施とPDCAサイクルによる指導により、さらなる学力向上に努められたい。 また、10分間ドリルや読書など学習意欲が増し、勉強心が向上する取組みをさらに工夫されたい。
高等教育の充実	23		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。ただし、教育への家庭環境による格差の現状把握が課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・すべての生徒が将来に向けて学べる環境を保障し、地域の企業との連携のとれた人材育成をさらに強化されたい。 ・奨学金制度の拡充と篤志寄付を募る取組みも検討されたい。 ・飯伊8高校へキャリア教育の展開をされたい。
家庭教育の充実	24		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本的な生活習慣を高めるために、PTAをとおして家庭教育の重要性を啓発されたい。 ・青少年のSNS利用に対する対応を、家庭、学校での指導を強化されたい。
スポーツの振興	26		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。ただし、スポーツ施設整備の要望は高い。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・老朽化した施設の中・長期的な改修計画を早急に示し、修繕の必要な施設は市民ニーズに応えられたい。 ・市民要望の強い、グラウンドの芝生化に、市民協働で取り組まれたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【社会文教委員会】

施策・事務事業の区分	No.	の事務 向 事 業 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名			
学習交流活動の推進	28		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の公民館がさらに地域特性を活かし、利用者が増える企画と運営を市民協働で取組まれたい。 ・新しい情報や学習交流の場を、現在の図書館機能を検証しつつ、複合型(カフェなど)学習交流の場づくりを検討されたい。
ふるさと意識の醸成	29		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自然・歴史的価値を見出し、シティープロモーションとして、メディア媒体を有効活用した情報発信に取り組むとともに、あらためてふるさと意識の喚起につなげる取り組みをされたい。
高校生等次世代育成事業		拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・飯田下伊那すべての高校へ水平展開をし、人材育成、人材確保をされたい。
心と体の健康づくり	31		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。ただし、特定健診の受診率低下は課題。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・特定健診の受診状況を把握し、特定健診の受診率向上に取り組まれたい。 ・地域健康ケア計画の着実な取り組みを展開し、健康づくり+10の普及啓発に取り組まれたい。
医療の充実	32		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域医療・介護総合確保推進法に基づき、今後の病院の病床数の推移を注視するとともに、地域包括ケアシステムの構築に向けて、医療関係者と連携し、積極的に取り組まれたい。 ・かかりつけ医制度を市民に周知し、医療の機能分化に取り組まれたい。 ・飯田下伊那診療情報システムism-Linkを地域医療機関の協力のもとに活用を推進されたい。 ・看護・介護職の確保に取り組まれたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【社会文教委員会】

施策・事務事業の区分		No.	の事務 方向 事業 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名				
共に支えあう地域福祉の推進		33		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・医療と介護の連携による、地域包括ケアシステムの構築と、地域の実情に合ったきめ細やかな、地域福祉計画の策定・運用に取り組みたい。 ・地域ごと作成された、助け合いマップの実効性ある活用をされたい。
高齢者福祉の推進		35		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:安心して暮らせている高齢者の割合及びいきいき暮らせている高齢者の割合が減少傾向にあることから、ある程度進んだとの市側の評価が正しいとは言い切れない。状況を把握し、今後の推移を見守られたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症対策を含めた介護予防の充実に取り組まれたい。
	高齢者生きがい推進事業		やり方改善	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の生涯学習活動の場を、市全体で検討し、例えば公民館事業として展開できるよう事業の統廃合を検討されたい。
	認知症対策総合推進事業		拡大	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援体制の構築により、認知症の理解度を深め、社会全体で見守るため、キャラバンメイトやサポーター制度の確立と支援を拡充をされたい ・認知症の徘徊等見守り訓練を地域あげて取り組まれたい。
生活困難者の自立及び支援		36		<p>○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生活困窮者自立支援制度の着実な推進に取り組まれたい。 ・生活保護から自立できるよう、必要な支援措置を拡充されたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【社会文教委員会】

施策・事務事業の区分	No.	の事務 向事業 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名			
子どもを産み育てやすい環境の充実	37		○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。 ・「こども家庭応援センター」の運用を検証されたい。 ・保育料金等の段階的軽減をさらに充実されたい。
地域資産の保存・継承	63		○課題認識:概ね正しい。○目標達成度:一定の成果を上げている。 ・橋北まるごと博物館構想、座光寺恒川官衙遺跡、無形民俗文化財や、ユネスコ・エコパーク、ジオパーク等、地域の理解を得て取り組むとともに、市民への普及啓発と地域の魅力発信に取り組まれたい。
施策	13		
事務事業	4		
計	17		

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

施策・事務事業の区分	No.	事の 務方 事向 業性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名			
支え、育む産業基盤づくり	11		<p>○方向性と評価は概ね正しいが、次の事項を課題と考える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事業所数や飯田市地方卸売市場の取扱数量が減っている。地場商業者の沈下が懸念される。 ・搬出間伐の面積が減少しており対応策が必要である。 ・施策1-1から1-3は相互に関連しあっており、事務事業レベルの整合性を明確にするとともに、地方創生の視点からあらためて見直し、改善が必要である。 <p>(提言)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・観光政策については、飯田市観光振興ビジョン推進のロードマップを関連団体とともに策定し、進行管理されたい。 ・事業所数や飯田市地方卸売市場の取扱数量が減少しており、地場商業の衰退が懸念されるので、早急な対策を打ち出されたい。
雇用対策事業	25-5	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉的側面に重点を置く事業は、別事業とし福祉課の所管とされたい。 ・カウンセリングから職業紹介まで、また就職に関する様々なサービスの提供など、雇用のミスマッチ対策に積極的に取り組まれたい。 ・ジョブカフェいいだは利用効果が見られている。対象年齢を45歳未満まで拡大することを検討されたい。 ・新規高卒者への求職情報の発信など企業とも連携し積極的に進められたい。
耕作放棄地解消事業	26-4	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・耕作放棄未然防止策、耕作地の統合拡大、栽培作物の検討、担い手に農業法人、企業参入を考慮するなど、「耕作放棄地解消」を主目的とした政策の下に事業体系を再構築されたい。 ・前年度に実施された耕作放棄地現地調査の結果を有効活用されたい。 ・地域の課題として取り組む必要が有ることから、まちづくり委員会と情報共有するなど協力を求めること。
産業用地整備事業	30-13	現 状 維 持	<ul style="list-style-type: none"> ・地方創生の視点から、スピード感を持った用地整備に取り組まれたい。
中小企業経営安定支援事業	31-4	やり 改 善 方	<ul style="list-style-type: none"> ・産業政策に欠かせない基礎データを得る場として、企業訪問活動を積極的に行い、中小企業の現状、課題に対する情報収集機能を強化されたい。 ・補助制度等の相談日については、最低月2回は取り組まれたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

施策・事務事業の区分 施策名及び事務事業名	No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
未来を見据えた地域産業の魅力、強み、人材の強化	12		○施策全体として「ある程度進んだ」との評価だが、もう少し厳しいのではないか。本施策は極めて重要なテーマを含んでおり、更なる効果を発揮させるため事務事業の個々の取組の中で、見直し改善の余地がある。 ・地域ブランド化の推進を最も重要な産業政策の一つと位置づけ、複数の施策の中で総合的に展開されたい。例えば食文化として「焼肉」を推奨するとすれば、店舗数の多さだけでなく、味とサービス、地場産の肉にこだわるなど焼肉を地域文化にまで高めるような仕掛けをされたい。 ・学輪IIDAの知見と地場産業のコラボを進められたい。 ・この地域の資源として技能労働者の育成に取り組まれたい。
技能技術伝承事業 (旧技能褒賞運営事業)	25-2	拡 大	・「技能技術伝承事業」となっているが、実態は「褒賞」が中心となっている。当地域で育まれている技能に関する現状分析を行い、技能褒賞から技能労働者の育成事業にシフトされたい。
農業振興センター事業	26-8	やり 改 善 方	・補助金交付事業が大半を占めている。一つひとつの補助事業の事業評価を行われたい。 ・耕作放棄地対策は、農業振興センターにおいて市全体を見据えた包括的な取組みをされたい。 ・農業者全体の育成支援とともに、特に認定農業者を増やすための育成支援に積極的に取り組まれたい。
果樹・野菜等振興事業	26-10	やり 改 善 方	・補助対象の推奨品種が数年来固定されている。ブドウ等への拡大を含め見直しを検討されたい。
飯田の木で家を建てるプロジェクト事業	27-25	やり 改 善 方	・今までにこの事業を活用した工務店や建築主に対してアンケート調査を実施するとともに、その結果に基づき需要が拡大するための工夫・改善をされたい。 ・工夫・改善に当たっては次の点も参考にされたい。 一定面積(例えば150㎡)以上の建物の場合には、飯田産材の使用を率ではなく、一定量以上を補助対象とする。補助対象となった建築に「認定証」及び「認定プレート」を贈呈し、掲示の協力を依頼し、周知、啓発をはかる。補助率を引き上げ、より建築主にメリットがある事業とする。
観光誘客宣伝事業	29-2	やり 改 善 方	・観光内容、目的に沿ったプロモーションになっているか検証するとともに、さらなる民間委託による専門性の発揮を検討されたい。 ・飯田の特性を生かした新たな観光コンテンツを創造されたい。 ・SNSを利用した観光誘客コンテンツづくり、情報発信者の育成、交流の場づくりを進められたい。また、Wi-Fiステーションマップを作成し市のHPなどで確認できるようにされたい。
地場産業等振興事業	30-6	現 状 維 持	・産業支援機関として、費用対事業効果の徹底検証を行われたい。 ・専門コーディネーター、アドバイザーの確保に努められたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

施策・事務事業の区分	No.	事の務方向性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名			
新しい力による新しい産業づくり	13		<p>平成26年度の評価結果は、事務事業の評価が「計画どおり取り組めた」施策全体の評価が「進んだ」となっているが、航空宇宙産業クラスター事業は本格稼働には至っていない、他の産業クラスター事業についてはまだこれからといったところ。また、起業家発掘事業は最終的には実績には至らなかった点などから、それほどまでには進んでいないと認識する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 産業用地の整備に当たっては、募集する事業所のコンセプトの統一や高速交通網が整備されることを見据えた情報産業などの企業の選定に配慮すること。また、環境に配慮した企業の選定も考慮されたい。 工場等の跡地や空き家となった工場などを産業用地として検討すること。 起業の支援に重点的に取り組まれたい。 南信州・飯田産業センターの移転に当たっては、検証作業を行うとともに、機能の充実などよりよいものになるよう検討されたい。 飯田型ツーリズムは、ライバル自治体の増加により厳しい状況にあり、アフターフォローを徹底し、体験者側から見て魅力あるメニューの開発を行われたい。
農業法人誘致・設立促進事業	26-23	拡大	<ul style="list-style-type: none"> 遊休農地活用、耕作放棄地の解消、農地利用集積円滑化、農業担い手誘致、新規就農者支援、そしてこの事業、さらに農業新分野創出・6次化事業、農業振興センター事業は、一連の流れの中の事業展開であって、相互の事業連携が必要となる。「総合的な相談・対応」が必要で、事業全体を組み立て直されたい。 参入法人の発掘のため、直接訪問やヒアリングを強化されたい。
農業新分野創出・6次化推進事業	26-28	やり改善方	<ul style="list-style-type: none"> 新しい取り組みであり、当面の間はハード、ソフト両面に対し市の積極支援を行われたい。 人材育成のためのセミナー、参加者のアフターケアをしっかりと行われたい。 当事業の推進に当たっては、農業法人誘致や設立促進を図られたい。
広域連携による観光誘客事業	29-22	やり改善方	<ul style="list-style-type: none"> リニア・三遠南信時代を見据え、魅力あるエリアや周回ルートを明確にした事業転換を図られたい。
地域産品ブランド化事業	30-20	やり改善方	<ul style="list-style-type: none"> 新たなブランド品発掘のためのプロモーションの仕組みづくりを検討されたい。 飯田市産業親善大使が縦横無尽に活躍できるよう、市も積極的に取り組まれたい。

平成26年度決算認定に係る施策及び事務事業に対する提言

【産業建設委員会】

施策・事務事業の区分		No.	事 務 方 向 性	施策及び事務事業に対する議会の提言
施策名及び事務事業名				
交通機関と道路の充実		44	/	<p>○取組みに対して概ね評価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・道路の維持管理は、財源の経年変化、国の考え方の変化を考慮するとともに、公共施設等総合管理計画の策定に併せて「短中長期の維持補修計画」を早期に策定されたい。その上に立って、必要な財源の確保に努められたい。 ・リニア中央新幹線や三遠南信自動車道の関連道路整備については、国や県からの交付金を積極的に確保し早期実現に努められたい。 ・公共交通の充実は、「コンパクトな都市づくり」の重要施策であり、市民の利用度が高まるよう努められたい。
活気ある街づくりの推進		84	/	<p>○りんご並木の活性化だけでなく中心市街地全体を対象として、人や物が集まり活気に満ちあふれるような街づくりが必要と考える。個々の課題認識や方向性は概ね正しい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第2期飯田市中心市街地活性化基本計画の中で特に未成熟であった事業については、具体化に向けて検討されたい。 ・中心市街地は、南信州定住自立圏の中心核としての顔と機能を持つため、整備においては民間活力やデザインコンペなど外部有識者からの意見も取り入れ、緑化を進め散策の楽しめる環境文化都市に相応しい街づくりを推進されたい。
評 価 対 象 数	施策	5		
	事務事業	14		
	計	19		